

# 2016

## 特定非營利活動法人 Future Code

### 活動報告書



Bridging to the future for global health

2017年 5月 15日

# Haiti

## 2016年4月－5月 無料結核検診

2013年6月に開始した住民無料結核検診を本年も開催。



本年度は若年者を含め、結核を強く疑う患者さんが多く、また結核とは無関係と思われるケースでも、重度の感染症や慢性疾患があり、この無料検診期間で初めて病院受診する人が見受けられました。この点からも、この検診は病院の支払いを心配する事なく医療にアクセスする機会ともなっています。



結果、過去最多ペースで結核の高いリスクをもつ123人を診察し、その中で22人に異常を指摘。この後に追加検査を行い、結核と診断できた場合にはそのまま同病院で治療を受けることができ、他の疾患の場合でも他院への受診をコーディネートします。



今後も定期的な検診の開催を予定しています。



## 2016年4月－5月 孤児院支援

首都近郊のいままでも訪れている孤児院では、約60人の孤児が生活しています。



足りないものは多く、この季節は蚊が多く発生しますが、蚊帳も足りなかつたり穴があいていたり、また不衛生な環境もあり、厳しさは変わりません。





そのなかでも1番足りずに問題なのはやはり食料、とのことで、皆様からのご寄付を子供達の食料などに変えました。主食である米を中心に、栄養補助食品や、子供達が楽しみにしている少しのスナック菓子。いま14羽いる鶏の餌も購入しました。



## 2016年4月－5月 歯科検診

以前から継続して取り組んでいるハイチ小児歯科検診と治療の取り組みですが、今回は首都近郊の小学校から要請があり、歯科医チームと検診と治療を行いました。



やはり後回しにされがちな歯のトラブルですが、あまり放置すると時には酷い感染症を起こし、命に関わる事もあります。今回は15人の子供に歯にトラブルを認め、主には歯に痛みがあり、虫歯が進行しており、歯科治療をおこないました。



治療後の満足度は高く、痛みがなくなると大変喜んでくれました。

今後も継続的に歯科検診をしていきたいと思います。

## 2016年9月 歯科検診

前回ハイチ渡航後に要望が大きかった歯科検診を定期的にできるようモバイルチェアを購入し、再度ハイチの孤児院にて歯科検診を行いました。



今回も反響が大きかったのでこの歯科検診も継続的に続けていきます。

## 2016年10月 孤児院緊急支援

ハリケーン「マシュー」により甚大な被害が出たハイチでの緊急孤児院食糧支援を実施しました。



## 2016年10月 被災地復興支援の調査

ハリケーン"マシュー"の被災地、ジェレミー近郊に復興支援のための調査をしました。今回の災害では、多くの死者が出ただけでなく、ハイチの穀倉地帯が壊滅し、さらに土壤にハリケーンによる塩害があり、ただでさえ食糧難の状況にさらに今後数年に渡り、追い討ちをかける厳しいものです。食糧配給はあるものの、それを手にできる避難民は限られており、数日に渡り水以外口にしていない、と言う声も多く聞かれました。



至る所で家は跡形もなく吹き飛ばされ、全てを失った住民も少なくなく、地域の病院も損害を受けたため一部しか機能していません。

大木も根こそぎ吹き飛ばされており、ハリケーンの凄まじさを物語ります。



ジェレミー近郊の都市、唯一の病院がこのハリケーンによって倒壊し、住民が医療を受けることができない状況にあります。Future Codeの学生部であるBYCSはこの病院を再建するため広報活動、また資金を集めるための活動を続けています。

# Burkina Faso

## 2016年7月 マラリアの予防と啓蒙活動

活動予定地であるサポネ保健行政区に入り、現地でのマラリア感染についての調査のため村々を回り、住民や現地ローカルNGOの協力を得ながら調査や活動を開始しました。

この国はマラリア感染症が大変多く流行しており、またこの地域では約10%の乳幼児が亡くなってしまいます。その対策として、寝室に蚊帳があるか、どのような状態か、もしくは上手く使われているなども個別訪問をしながら調査を進めました。



7月時点では、まだまだ蚊帳がない家も多く、今後の政策による蚊帳の普及が待たれますが、特に5歳以下の小さな子供にとってマラリアは時に致命的となります。また新生児がどこかで寝ている時に簡便に使え、持ち運びもできる蚊帳があり、小さな子供を育てる村のお母さんたちにとってもこの蚊帳が好評であったので、写真にある蚊帳を配布しました。



季節も雨季になり、これから多くの蚊の発生が予想されます。小さな子供たちを守るために地域住民と一体となり、家を一軒一軒個別訪問をしながら住民と共に知識を深める必要があります。

また村の小さな民家にも使いやすい形の蚊帳や、乳児用の蚊帳の普及も検討しました。



# 2016年10月 マラリアの予防と啓蒙活動

調査期間：2016年10月13日～10月20日

対象者：サンビ村の住民

調査結果		
項目		備考
サンビ村の住民の数	444人	
家族数※	51家族	
家数	185軒	
5才以下の子どもの数	87人	全住民の19.5%
蚊帳の数	240	全住民の54%
啓発対象家族	42家族	全家族の82%
啓発対象家	164軒	全軒の88%
啓発対象人数	409人	全住民の92%

※ブルキナファソでは簡易な壁で囲まれた敷地内にいくつかの家が建てられ、家族が暮らしている。「家族」という単位は日本の感覚とは少し違い、遠い親戚なども一緒に暮らしていることが多い。

活動地の村で、住民への説明会を開催しました。私たちのマラリアをはじめとした病気を減らそうとするために来た目的や、実際に進めていく方法や将来的な方向性が話し合われました。



村の中に入り、正確な現状把握のための調査と啓蒙活動を開始しました。一軒一軒を徒歩で訪ね、丁寧な仕事を心がけています。Future Code ブルキナファソチームの連携も徐々に向上しています。



また数年前に国がマラリア対策として蚊帳の配布を数年前に全件に行ったのにもかかわらず、何故かその際にリストから漏れて蚊帳などを何も持っていない数件の家が判明しています。

また、一部のエリアで少数民族のプル族が住んでいて、家の形が全く異なり、蚊帳がうまく張れない可能性があるため事前調査をしました。



## 2016年11月 マラリアの予防と啓蒙活動

村では農作物の収穫が始まったため、これまで朝に行っていマラリア予防の啓発活動を夕方の時間帯に変更しました。夕方には子供たちも学校から帰ってくるため、活動を始めると子供たちに囲まれてしまうこともあります。子供達も我々の活動に興味津々。このように少しづつ自然に、子どもたち自身たちにもマラリア予防の知識が定着していってくれることを願い、乳児死亡率を少しでも下げられるよう活動を続けました。



## 2016年12月 マラリアの予防と啓蒙活動

ブルキナファソではマラリア対策として蚊帳は配布されており、多くの住民が蚊帳を所持していますが、何らかの理由で配布時期に蚊帳を受け取れなかつた人たちもいます。



そういった人々に対して Future Code としては、蚊帳を買ってあげるのではなく、まずは配布を担当する村の診療所に事情を説明し配布もれがあることを理解してもらい、診療所に余っている蚊帳を人々に届けました。



蚊帳を買ってあげることは簡単ですが、できるだけ現地でできることは現地で解決してもらうことで、現地側の理解を深めることにつながり、また皆様からのご寄付も有効に使うことができ、ブルキナファソではこのような活動を行っております。



## マラリア予防プロジェクト 2016 年報告書

項目	EXECUTION (実施数)
NOMBRE D' ANIMATION 啓発日数	4 3 日 (調査期間を除く)
NOMBRE DE CONCESSION VISITEES 訪問した家族数	1 4 7 回
NOMBRE DE MAISON VISITEES 訪問した家数	4 3 9 回
NOMBRE PERSONNE TOUCHEES 対象となった人数	1 1 3 9 人
NOMBRE D' ASSEMBLEE GENERALE 住民との会合	2 回
NOMBRE DE SUPERVISION コーディネーターの引率回数	1 回

	介入前	2016年12月時点
住民の蚊帳の使用率	58%	87%

10月～12月の3ヶ月間に1139名に対しマラリアの予防の啓蒙活動を行った結果、当初このプロジェクトを始める前の蚊帳設置率は58%であったが、最終的には87%まで上がった。

この結果からみてもマラリアに罹患する確率は減ると考えられ、10%という高い乳児死亡率も減少すると期待がもてる。

# 2017年1月～3月 マラリアの予防と啓蒙活動及び水と衛生の改善活動

昨年より開始したブルキナファソでの活動を今年も引き続き行いました。乳児死亡の原因として、マラリアの他には水の衛生環境が悪いことなどからの下痢が大きな原因の一つです。

そこで私たちは昨年から取り組んできたマラリア対策に加え、水の衛生を改善するためにも活動しています。



この地域には上水設備はなく、井戸水を生活に使用しています。

そこで各家庭で飲料水に適した水を選び、さらに水を貯める容器などにも蓋を取り付けるなど、衛生的な状況に保つ事を行っており、住民からも飲み水などがきれいになったと喜びの声も届いています。



また、この地域には適切な場所に衛生的なトイレがなく、これも井戸水を汚染してしまう原因と考えられます。住民からもトイレの建設の要望が出ており、今後住民と会合を持ち連携をはかりつつ検討したいと思います。



# Bangladesh

## 2016年9月 孤児院診療

首都ダカ近郊の孤児院での診療を開始しました。約 60 人の孤児が住むここでは、何らかの感染症になりながらも診療を受けられない子供も多く、数人の孤児には細菌感染による病状を確認し、治療を開始します。これからも定期的な診療を行っていきたいと考えています。



またバングラデシュの孤児院に、薬を入れた薬箱を設置しました。薬箱は通常時にはロックされており、薬の必要時には Future Code の医師の診察と指示に従い、子供たちに使用されます。

孤児院の周辺では必要な薬がすぐには手に入らない事も多いのですが、これで子供たちに診察から治療まで一貫して行なうことが容易になります。まだまだ寄生虫感染なども多く、これからも定期的な医療サポートを継続します。



10月にはイスラムの祭りである犠牲祭の一環として、牛肉料理の昼食をプレゼントしました。子供たちは普段なかなか肉料理を食べる機会がないこともあり、このプレゼントに大変喜んでくれました。これからも子供たちの健康を守る活動を続けます。



## 2016年10月 孤児院巡回診療

バングラデシュ孤児院で巡回診療を行いました。

火傷など、治療が必要な場合にも、先日設置した薬箱の薬を医師の指示のもとで使い、治療を行っています。

今回の診察では、寄生虫に感染している子供たちも多くみられ、寄生虫に対する薬も追加購入し、診療する予定にしています。



## 2017年2月 現地病院運営再生とスラムへの母子保健の提供

### 進捗状況

バングラデシュでスラムに住む母子に医療を届けるためキングストン病院とそこで働く医師たちと一緒にテイリングを重ねています。

医療が届かない場所に医療を届けるため、バングラデシュ支部と連携を取り着実に進めたいと思います。



## 2017年2月 孤児院巡回診療

バングラデシュ孤児院で定期的に行ってい巡回診療を行いました。

多くは笑顔もたえない元気な子どもたちですが、やはり 20 名程には感染症が多く、また医療機関への受診と治療が絶対に必要な子どもも数人いました。今後はバングラデシュ内のプロジェクトと連動し持続可能な支援を目指します。



# Japan

2016年8月

## Future Code 活動報告&講演会を開催（神戸市御影にて開催）

今回はバングラデシュやブルキナファソで活動している現場のスタッフも登壇し、現地の状況や活動を報告させていただきました。また代表からは「平和」をテーマに市民としてどのように考え方行動し、平和を創りしていくのかという事を実際現場で感じた事をふまえて話させていただきました。参加いただいた方からは、全体的に説明が分かりやすくとても興味深かったなどと嬉しいお言葉を頂きました。



2016年11月

## Future Code 認定報告会&講演会を開催

Future Code が NPO 法人から認定 NPO 法人となった事をうけ、11月12日に報告懇親会を開催させていただきました。また顧問であるシスター須藤先生からのメッセージをいただき紹介させていただきました。



2016年11月

## 兵庫医科大学の大学祭「醫聖祭」参加

11月19日の兵庫医科大学の大学祭「醫聖祭」に活動紹介のブースを出させていただきました。



2016年11月

## 神戸グローバルチャリティーフェスティバル 参加

神戸海星女子学院中学・高校で2回目の参加となるチャリティーフェスティバルにブースを出させていただきました。たくさんの方に来場いただき活動紹介をさせていただきました。11/12に行われた報告懇親会にもお越しいただいた衆議院議員 井坂先生と神戸市会議員 謙山先生はじめ、わざわざ遠方から駆けつけてくださった方もおられ、改めて神戸発祥の国際医療団体としてスタッフ一同、身の引き締まる想いですが、これからも誠実な活動を続けていきたいと思います。



2016年12月

## 外務省主催「Juntos!!カリコム若手外交官・行政官」歓迎レセプション参加

本レセプションにて、各国大使及び未来を担う若手外交官とともに、当NGO理事 青山が出席し、カリブ諸国間との友好関係について交流を深めました。理事の青山から、高瀬中南米局長に、Future Codeの活動をご説明するとともに、今後益々の日・ハイチ関係の友好、支援体制の構築に向けて申し上げました。



## READYFOR 主催 国際協力のトークイベントに参加

代表 大類が登壇させていただく中で、100人を超える皆様にご来場いただきました。またバングラデシュでの新プロジェクトを紹介させていただき、その必要性を訴えました。



2017年1月

## 阪神淡路大震災復興祈念イベント ONE HEART 参加

神戸市長田区の西神戸センター街で、震災の復興祈念イベント「ONE HEART」に出演させて頂き、当団体の活動を紹介させていただきました。商店街の方やたくさんの参加者の方に応援していただきました。



2017年2月

## ワン・ワールド・フェスティバル 参加

西日本最大の国際協力のイベント ワン・ワールド・フェスティバルに出展しました。

2日間でたくさんの入場者がブースに来てくださいり、活動を紹介させていただきました。学生部 BYCS も参加し、彼らの活動を来場者にアピールさせていただきました。このような活動を通じて幅広い世代に Future Code の活動を知ってもらえるようこれからも積極的に参加してきたいと思います。



## 2017年3月 南三陸で交流会を行いました。

南三陸町の若者と FutureCode 学生部 BYCS、神戸のアイドルグループ KOBerrieS（コウベリーズ）で意見交換と交流会を開催しました。話は震災のお互いの経験や、ボランティアのあり方に始まり、学生らしく学校の単位の話や、ただの雑談まで、笑顔の中に真剣な話も織り交ぜつつ、話が途切れない時間が続きました。これからも若い世代でも人と人がつながっていく事で交流がより発展し、神戸と南三陸と言う街の名前のみならず、ただの本当の人間関係でつながっていく未来を期待せずにいられません。このような活動も引き続き行っていきたいと思います。



# Future Code BYCS (学生部の活動)

学生主体でものごとを動かす国際協力の活動を大切にしたいという想いから、独立した学生部をつくりました。BYCS とはBridge Youth Challenge Smileの頭文字をとっています。

若い力でいろんなことに挑戦し途上国との架け橋になって、現地の人の笑顔がずっと続きますようにと願いを込めています。

現在メンバーは神戸市外国語大学と流通科学大学から参加した 6 人が主となり活動しています。



## その他各種講演会・特別講義

### 2016 年 7 月 関西学院大学 社会学部にて特別講義を担当

毎年恒例となっております関西学院大学での特別講義を今年も行いました。Future Code の活動の話だけでなく、途上国での現場の経験や、大類自身の留学から得た、必要な考え方や行動なども説明しています。



## 2016年8月

岡山県 前島で開催された、高校生を対象とした国際青少年リーダー育成セミナーの合宿に代表 大類が講師として登壇しました。みな意欲的な学生ばかりで、テーマに合わせたディスカッションも行いながら国際協力だけでなく、考え方やリーダーシップについても共に学びました。



## 2016年11月 関西学院大学 社会学部にて特別講義を担当

講義の中では、活動の話だけでなく、私たちが考えるリーダーシップとは何か、などにも触れ、現場の映像もふんだんに取り入れています。



## 2016年11月 流通科学大学にて特別講義を担当

流通科学大学にて代表 大類が特別講師を本年もつとめさせていただきました。私たちの活動紹介に加え、学生さんに向けてのリーダーシップ論やネット社会の中での情報選択、そしてクラウドファンディングなどにも触れています。少しでも参考になる講義であったならば幸いです。



## 2016年12月 神戸市外国語大学にて特別講義を担当

団体の活動紹介に加え、考えて行動する大切や、Future Code の学生部 BYCS についても話させていただきました。とても多くの学生さんに集まつていただき、講義中のディスカッションでは積極的に意見を交わして、とても熱心な様子を感じることができ、私たちもとても嬉しく思いました。



## 2017年3月 兵庫県立加古川東高校にて特別講義を担当

代表大類が国際理解について 800 名近い学生さんの前で講演依頼を頂き「行動が創るアイデンティティー」についてお話をさせていただきました。

活動の話だけではなく、何を考えて現場で活動しているのかということも盛り込み話させていただきました。「かわいそだから」という理由で活動しているわけではないこと、ちゃんとと思ったならば「行動」に移す大切さ、そういったこの話で私が本当に伝えたかったことを 90 分という時間でちゃんと理解し、次に自分の行動に思う部分を反映しようと考えている姿勢を感じることができ、改めてこのような活動の大切さを感じました。



### ・その他講演会

## **2016年4月青少年の国際理解・社会奉仕研究会と交流会**

丹波篠山にて、高校生50名に向けて代表 大類と当団体スタッフ長谷川看護師が Future Code の活動や、自分自身がこの仕事を選んだ「きっかけ」などを講演させていただきました。

## **2017年3月青少年の国際理解・社会奉仕研究会と交流会**

兵庫県の柏原で開催された「青少年の国際理解、社会奉仕研修」にて約50名の看護学校の学生や高校生を対象に FutureCode 代表 大類と看護師 長谷川が登壇させていただきました。

